

生涯現役 推進員

報告

ようこそ尾津の朝市へ

末岡登喜子(岩国市)

11月12日第2土曜日は毎年恒例となっている朝市県境フェスタの日です。

朝7時前、会場であるJA岩国愛岩支所の駐車場に全員集合。国道沿いにピンクののぼりを立てたり、入口に机を並べて「ようこそ尾津の朝市へ」の横幕、地区の特産品、岩国れんこんの極上品を飾ったり、スタンプリリーの準備などなど、みんなで手際よく支度をすますと、それぞれ自分の野菜を台の上へ並べていよいよ8時、ストレッチ体操をして開始、と思っていたらお客さんがプレゼントの野菜へ殺到して、てんやわんやの大きわざになりました。

が、それも一時のこと一段落すると、お客さんはポツリポツリですが時間をかけて野菜を見て、売り手との対話を楽しんだあとは冬瓜、サツマイモ、鬼柚子の重さ当てクイズに挑戦したり、婦人会のミニフリーマーケットをのぞいたり結構楽しんでおられました。

県境フェスタは土、日曜の2日間ですが、私たちはレンコン掘り繁忙期なので土曜午前中のみの参加です。お客さんの少ない時はお茶を飲んだり、おしゃべりをしたり楽しい一時を過します。おかげ様で売り上げはふだんの倍近く、婦人会のフリーマーケットも1万円以上売れたと大変喜んでおられました。午前中の四時間はアツという間に過ぎ、後片付をすますと、役員さんにおべんとうを買ってもらって談笑しながら一緒に食べます。「プレゼントの野菜をあげる方法を考えんやあ、いけんねえ」「スタンプリリーのお客さんは何も買わんでスタンプだけを押していつて…」などなど…。お金より何より皆さんとのふれあいを第一にして、豊かな老後が送れるよう、これからも続けていきたいと思っております。

ふれあいサロン

升尾静代(岩国市)



11月29日に「ふれあいサロン」をしました。岩国海土路自治会館で片山自治会、南三丁目自治会、新南岩国自治会のお年寄のサロンを年4回開いているうちの1回です。

民生委員の方が主体で、福祉委員さん、ボランティアの人々と、平成センターの職員さんと社会福祉協議会等によって開いています。

軽い体操をしたり、認知症防止、電話サギ、防火などのお話を聞きます。

お昼は持ち寄った野菜を

使って汁物、サラダ、酢の物等を米飯は食品店で利用して、楽しい一時を過します。写真はボランティアの人たちとみんなで軽い体操している所です。



心を一つにして演奏

村岡恒信(岩国市)

「春高樓の花の宴」 「みかんの花が」 美しい大正琴の音色が、会場いっぱい響きわたります。高齢者グループによる「大正琴の会」は、平成11年5月に発足し、現在メンバーは7名(年齢は65歳〜70歳)です。

「簡単に弾けそうな楽器」と思って始めたものの、当初は各人の練習量やリズム感などの違いもあって、琴の音色やリズムを合わせるのに苦労されたようです。今では、頭と指先と耳をフルに働かせ、呼吸を合わせ、集中力を高め、心を一つにして美しいメロディーを奏でるまでになりました。

練習は毎週金曜日、民家を借りて行っています。練習の合間は時として「おしゃべり会」や「お菓子タイム」となり、メンバーのストレス発散や活力回復の場ともなっています。練習曲は3か月毎に変え、その成果は老人ホームなどを訪問して発表しています。

日頃あまり目にしたり、演奏を聴いたこともない施設の皆さんも大正琴に大変興味を持たれ、演奏を楽しみにしているようです。昔懐かしい唱歌や童謡の演奏が始まると、口ずさむ人も多く、時には合唱になることさえあります。メンバーの皆さんは、そうした活動を通して「自分たちもまだまだ人様の役に立っている」との実感を深めると共

に楽しみと生きがいにもつながっているようです。これからも継続は力なりのもと、更なる技能の向上を目指して頑張っています。



はつらつ人生の継続のため

森田輝男(岩国市)

「たまには課外活動を」ということで11月4日銭壺山へ登った。快晴。瀬戸内海と周防の山々が、それはそれは良い眺めでした。これはその記念写真です。

70代が5人、60代が5人、合計10人で682歳の若い活き活きサロンです。毎月2回

集まって、4科目を楽しんでいます。

(1) 体育の時間は約20分で、ストレッチ体操の後、ふくらはぎの筋力アップをしてスクワット(SQUAT)を百回やり、脚、腰を強くして転倒防止を目指しています。

(2) 国語の時間は約10分で音読をやっています。目にする文字を声を出して読み、脳内の血流を向上させています。

(3) 歌の時間が一番長く、各自好みの曲を選び皆で歌います。アカペラだから楽譜を開いたら直ぐ歌い始めます。好きな歌ばかりなので皆良い気分になり時間を忘れます。

(4) 絵の時間は約30分で、とても静かです。野菜や果物や花など、写生材料は持ち寄り、絵の大きさは自由。30分で完成させ、最後に並べて写真をとります。

脳のエネルギー源は糖分です。あめ玉をしゃぶって、持参のポトルでのどをうるおしています。会館の和室には10人がちょうど旨くおさまります。質素で無理のない活動で、そのうち合計年齢は700歳

を迎えるでしょう。記念行事を話し合う日もやがて来るに違いありません。80代、90代の先輩現役の情報に接する時、こつこつと、はつらつと継続させる工夫、努力の大切さを感じているところです。



声かけ、目をかけ、 気にかけて

清弘雄正(周東町)

高齢社会の到来と共に、独居老人を多く見かけるようになった現在、特に農村部では若者の流出でその傾向が多く見受けられます。そうした中、これらの独居老人の方を地域

の手で支えて行こうという活動が始まり、今年で20年近くになる周東町川越地区の人たちの活動を紹介します。

活動しているのは「周東町川越長寿社会対策重点地区推進委員会」で、昭和62年4月に玖珂西警察署の要請を受けて発足しました。目的は高齢者の保護及び社会参加の促進を図ることにより地域社会の安全確保に寄与することとなっています。

この委員会の委員は14名で1年任期。毎年更新で5月に玖珂西警察署長、玖珂西警察署協議会長他関係者と全委員が出席する委嘱式があります。

今年度は5月20日にその委嘱式が行われ、安田署長から委嘱状を手渡された後、刑事課や駐在所の署員から最近の高齢者に対する犯罪とその手口、対応の仕方等の話しがあり、委員長の前で会の活動の柱である独居老人宅訪問について各委員から年間を通しての動静報告と今後の取り組みについての話し合いが行われました。

地域内の独居老人は現在64

名で、委員1人が平均4〜5名を受け持っています。委員の手許には「独居老人宅訪問区割表」があり、その受け持ち宅の動きを「気にかけて、声かけ」して安否を確認しています。また、区割表には、自宅の電話番号と共に携帯電話を含む緊急電話番号が記されており、異変を感じた場合には身内の人に即連絡するようになっています。

同委員会では委員長を中心に年3回の定例会を開くほか、随時必要に応じて会もち、活動の促進を図っています。このような委員会の活動は、地域内で暮らす独居老人はもとより、仕事その他の事情により地域の外で暮らしている身内の人々にも安心感を与えているように思います。地域に独居老人が年々増えていく現在、このような支援の手さしのべ方は、大変大切なことと感じました。

向こう三軒両隣、声かけ、目をかけ、気にかけて

これは、同じ周東町の相生地区内でつくられたもので、各戸に掲げられており、この

標語の文字どおりの地域活動が、自然発生的になされています。玖珂西警察署では地域の了解を得て、「玖珂西安全安心づくり」の啓発にこの言葉を添えています。この活動については、平成17年度県警察署協議会会長会議においても披露させていただきました。



初めての試み

「うたごえ喫茶」

小野彰三（光市）

10月29日光ふるさと郷土館の中庭において、第1回うたごえ喫茶が開かれました。これは、「歌い継ぎたい文

部省唱歌等を歌う会（鮎貝真道会長）が、銀杏の樹の下で歌い継ぎたい唱歌・日本の詩を楽しく歌いましょう、と呼び掛け、室積老人クラブ連合会が後援して実現したもので、老人クラブの会員やコーラスグループの仲間たち、孫を連れての参加など、約90名が来場し大盛況でした。

来場者には演奏する19曲の歌詞のプリントが配られ、司会の平田邦子さんが1曲ごとに解説をし、ミュージックボランティアの原田健男さんがアコーデオンで伴奏されました。来場者それぞれに、古きよき日本の心を歌の中で想いおこし、当時の情景を偲びながら、昔馴染みの懐かしい唱歌を、みんなで合唱。途中の休憩時間には、キーキにコーヒーやジュースがふるまわれ、来場者同志で交流を深めました。

鮎貝会長は、「唱歌は、日本の歴史や文化をうたったものが多く日本の宝でもあります。今後も春と秋にそれぞれ2回、うたごえ喫茶を継続して開催し、歌い継いでいきたい」と抱負を話されていました。



介護の道しるべ

川本幸子（下松市）

11月29日、下松市老人会女性部16人で「アイリスケアセンター下松」の見学勉強会に行き、センター所長より説明を聞き、勉強になりました。

日本の高齢化社会の実態について、介護率や介護の導入、ヘルパー教育、老いの自覚、心や身体の自立、認知症の受け入れ方と接し方、介護への携わり方、心のケア等、いろいろなお話を聞きました。私は、主人が今要介護1です。主人への接し方を反省しました。「もっと接し方を

やさしくしてあげんと…」と反省をしました。

次に、介護保険サービスの利用についての説明がありました。主人は要支援と要介護1の間をいったりきたりなので実際にいろいろな介護保険サービスを利用しています。が、申請方法に始まり、要介護認定や認定審査について、ケアプラン作成やサービスを選ぶ時のことなど、この説明を初めて聞かれた方は幸せだと思います。

また、施設内も見学しました。入所されている方は30人ぐらいで、そのうち10人ぐらいの方が手足を動かす体操を若い先生としておられました。私たちが見学に訪れたのが恥ずかしいのか下を向いていらつしやる人や横を向いている人もいらつしやいました。

主人が利用している通所ケアも見学しました。器具を使ったり号令に合わせて体操する人、お風呂上りに看護師さんに頭をといてもらったり指を動かしてもらったりしている人などがいらつしやいました。明るく窓が大きい部屋だったせいか、皆さんわりに

うちとけていて明るい様子でした。

主人もここを見学してお世話話になることを決めました。が最初に行くまではどうだろうかと心配していました。今では友達もでき、カラオケやゲームをしているらしく、楽しそうにその様子を話してくれます。週3回、その日のくろのを「明日は友達とどんな話をするかな。面白いことをするかな」と心待ちにしています。帰ってきたら「今日はこんな話をした。一緒に歌った。保育園の子どもが来た。ギターをひいたり踊りをする方々が来られた」など、家で一人でテレビを見ているより楽しそうです。

私も通所サービスの利用を始めたときは心配しましたが、主人が元気に明るくなつて「自分は手も足も動くし、一寸足が悪いだけだ。行つて良かった」と言っている様子を見て「有難いな」と思っています。高齢社会は早いです。リードで進んでいます。健康に気をつけて生活をしようと思つています。



周南市老連の愛称は、「輝きクラブ周南」です。

赤星公平（周南市）

周南市老人クラブ連合会の愛称が「輝きクラブ周南」に決まりました。

平成15年4月に徳山・新南陽・熊毛・鹿野の2市2町の老連が合併し、周南市老連が誕生しました。その『魅力アッププラン』の目玉が、愛称によるイメージアップです。

昨年、愛称応募175点の中から、「輝きクラブ周南」が選ばれて今年から使用することになり、1月から3月にかけては、愛称記念・会員増

強キャンペーンを全市で展開しています。

今までの「老人クラブに入りませんか？」から、「輝きクラブへどうぞ」と勧誘の言葉が変わりました。『魅力アッププラン』のキャッチフレーズは、「新しい仲間とともにまちづくり」です。「新しい仲間」とは、「合併して一緒になった仲間」と、次々と「新入会される仲間」の両方です。あらゆる機会を利用して、市民のみなさんに「輝きクラブ周南」の知名度をあげるよう理事会でも申し合わせて実行しているところです。

今年度の大きな行事では、支部（徳山・新南陽・熊毛・鹿野）事業としての各スポーツ大会もありましたが、本部事業・ふれあい健康づくり大会や周南市社協との共催事業・地域福祉推進大会は、その下準備や本番で会員の一体化醸成に大きく寄与しました。

平成16年度はやまぐち長寿大学（第13期生）は、周南市が会場でした。周南市内から受講した30人以上の同期生OBは、支部所属は別々でも互いに横の連絡をとり合い、結

束して、今や「輝きクラブ周南」の心強い担い手として活躍しています。このことは、山口県が進めている生涯現役社会づくりが着々と根付いていることを物語っています。

「輝きクラブ周南」の今度の課題は、本当に地域に愛され親しまれる存在となることです。自治会や社協との連携・協働や、会員同士の生きがい活動について、新たな気持ちで取り組んでいきたいものです。

なお、今回の愛称命名を機に、広報紙『周南市ろうれんだより』のタイトルも『輝き周南ジャーナル』に改め、内容のより充実を目指して編集員一同張り切っています。



地域福祉推進大会に八百人 多田道馨(周南市)

「人が動き地域が熟す」をテーマに、周南市の「第1回地域福祉推進大会」が去る11月22日、関係者800人が参加して周南市市民館で開催されました。

これは、従来市老連と市社協が個別に開いていたものを今年から一本化したもので、シニア第一クラブでは席上、住民参加型地域福祉の活動事例として次の報告を行いました。

*

「サロン古市」における活動について

1 はじめに

「サロン古市」は旧新南陽市が平成13年度から新たに実施したふれあいいきいきサロンや生涯現役社会づくり事業など、高齢者介護予防事業に対処するため、シニア第一クラブ老人会が市の協力を得て平成13年6月9日に開設したものです。

現在「サロン古市」で実施している生涯学習などのいきいきサロンは次の11グループ

で会員は約150人です。

(1)趣味教養サロン

はがき絵サロン、太極拳サロン、大正琴サロン、カラオケ鶴組サロン、カラオケ亀組サロン、連句会サロン

(2)地区別サロン(福祉員会主催)

古市東サロン、古市中サロン、古市西サロン、古市北サロン、和泉屋開作サロン

このレポートは地域における住民参加型地域福祉の実践記録であります。

2 「サロン古市」の特徴

(1)空き家となっていた民家を無料で借り受けて活用していること。

(2)地域の中心部に位置していることと、民家をそのまま使用しているので利用しやすいこと。

(3)少人数から40人程度まで誰でも家庭的雰囲気の中、気軽に利用できること。

(4)自治会や子ども会など地域にも無料開放していること。交流の場となっていること。

(5)趣味教養サロンは経費節減などのため特定の講師を設けず、皆が先生、皆が生徒方式を採用、お出かけサロンの導入など和気あいあい

を旨としていること。

(6)開設にあたっては、不用品の搬出から建物の補修、大掃除、庭木の剪定、障子の張替えまで総出の奉仕で行っていること。

(7)空調機をはじめ冷蔵庫、カラオケセット、茶碗、コップなどすべての備品類は、住民の提供によるものであること。

(8)管理運営のすべてをシニア第一クラブと福祉員会のボランティアで行っていることなど、地域の財産となっていること。

3 「サロン古市」の利用実績

平成13年6月9日から平成16年12月31日までの利用実績は753件、9,492人、1日当たり7・4人です。また、最近では利用増により1日当たり約10人となっています。

4 社会進出と社会貢献

これからの活動は自主独立が時代の要請です、はがき絵グループでは新南陽市民病院内に作品展示コーナーを新設して、常時約30点を展示、3か月ごとに作品を取り替えて

います。この企画は病院側から深く感謝されています。

5 あとがき

旧新南陽市における、いきいきサロン事業の第一号としてスタートした「サロン古市」も開設以来4年が経過しました。「サロン古市」管理委員会や福祉員会など多くの人々の善意と協力に支えられて、まずは順調に推移してきました。

今後の課題としては、いきいきサロンの改善、周南市誕生に伴う制度の変更、建物が築80年を経過老朽化していること、パソコンクラブの新設、連句会の育成などがあります。



地域活動は、共感され愛されるものでなければなりません、魅力あるところに人は自然に集まるもの。魅力アップが大切であります。

「サロン古市」がこれからも高齢者の活動拠点として、また交流の場として、より充実、更なる発展を願って止みません。

保育園児との「おイモ掘り」

藤井富美(周南市)

地区内の保育園児との「おイモ掘り」を行いました。それは11月22日でした。

畑作り、諸づる作り、猪よけの綱張りに加え、雨の少ない夏でしたので、60坪強の畑に植えたばかりの諸づるに、朝夕の散水は腰の痛い作業でしたが、ようやく保育園の年長組さくら組の園児20名が歓声をあげる程の大きなおイモが出来ました。

園児たちは、砂遊びの感覚でしようか用意した草取りや移植ごては使わず、土との感触を喜び、手で掘っておりましたし、収穫後は畑の土で「お

だんご」を作って喜んでおり、その遊ぶ姿を見ると半年に及んだ苦勞も忘れられました。

私は普段、老人クラブやいきいきサロンで活動をしており、グループ員が楽しく元気で過ごせるようにと、ほとんどそのことばかりに気を使っていますが、何かこのパワーをもう少し他のことにお役に立てることはできないかと思っております。そんな折、たまたま定年退職後に主人の生家の田舎に住むこととなりましてので、この環境を生かすことを考えました。

もと海軍軍人の主人は健康に恵まれ、老人クラブ員の中では元氣な最高年齢（89歳）



で、「何かのお役に立ちたい、次の世代の子どもたちのよい思い出を作りたい、勤勞の尊さを」との願いがありました。そこで私も協力し、保育園児とのイモ掘りは中断していましたが、また今年から復活したものです。

七尾シニアペタンククラブ 活動

中司五郎（防府市）

防府市右田七尾地区では、平成15年4月に私が七尾シニアクラブの会長に就任して初めて、健康活動事業としてペタンククラブ「根の会」がスタートしました。

平成16年4月には、本格的に七尾SCペタンククラブを結成し、現在会員数25名で活動しています。私たちのクラブでは、「お互いに仲良く楽しく助け合い、健康で明るく生涯現役」を目標としており、地域交流を行っています。

競技の練習日は、スタート当時は月2回でしたが、現在では毎週木曜に2時間、七尾ゲートボール広場にて、右田



SC連合会ペタンク大会に積極的に参加しています。

5月5日には結成1周年を記念して、七尾地区で親睦試合を開催しました。また、9月30日には、七尾SCペタンククラブ主催で地域交流親睦試合を開催し、玉祖地区から10チーム、石田地区から2チーム計12チーム、46名の参加者で試合を行いました。ゲーム中は、明るい会話や軽い冗談が飛びかい、フィールドは笑い声であふれ、すごく楽しい光景でした。試合終了後には参加メンバーから「またやりましょう」と声を掛けられ、主催を務めた私の地区のメンバーは大喜びでした。

こうした地域交流活動が出来ることに大変充実感があり、私としては開催を継続する計画です。同事業に石田シニアクラブ連合会の役員の方々から温かいサポートとご支援をいただきましたこと、改めてご報告しお礼申し上げます。ありがとうございます。

「第29回華城すこやかふれあい祭」大盛況

中村幸雄（防府市）

11月20日、JA華城支所と華城公民館、華城小学校で、華城コミュニティ推進協議会の主催、華城地区民9,000名が参加して「第29回華城すこやかふれあい祭」が盛大に行われました。当日は幸い小春日のような天候に恵まれ、会場は、人、人、人で埋めつくされました。

JA中央会場はあいさつに始まり、交通安全協会と幼稚園児による交通安全おどりや華城小学校の吹奏楽演奏の他12の催しが行われ、最後には自治会連合会による抽選会があり、当選者への賞品渡し

のときは多くの人が拍手をおくつてにぎわいました。周辺はパズーや屋台村等多くの出店があり、焼鳥の美味しそうなお匂いが周囲をつつみ、来場者も満足して休憩所では一段と話しがはずんでいたようです。

所狭しと並べられたパトカーや消防車等の横を通って公民館内展示場に行き、文化祭の展示品を見て回ると、木彫や写経など14の出品作品はどれも優れた出来栄で、よくもこれほどまでに上手に出来たものだと感じつつ会場を後にした。公民館前の広場では、ゲートボールや消防車による放水が行われ、屋上からのもちまきで締めくくりとなる予定で進行していた。コミュニティ広場では10種類の



販売があり、中でも韓国料理が盛り上がり多くの人を引きつけてにぎわっていました。

華城小の体育館では、日舞、吹奏楽、社交ダンスのほか6つの催しがあり、どの会場もよくこれだけ多くのことが地区民によって出来たものだと感心し、地区内の幼児から大人まで、それぞれの趣味グループによる展示と催しに協力されたことに、すばらしさを感じることに、地域を盛り上げておられることは華城の誇りではないかと思いました。

すこやかふれあい祭が大盛況であったことを感じながら、また来年の開催を楽しみしつつ会場を後にしました。

「ふるさと学習」に参加して

古川友信（山口市）

山口市立井関小学校では「ふるさと学習」の一環として、毎年年度末に新年に飾るしめ縄作りを玉川寿会（老人クラブ）会員の指導のもとに行っています。

本年も5・6年生全員、44名の子どもたちと楽しい一時

をすごしました。この「ふるさと学習」は二十数年前からの伝統があり、代々の老人クラブ会員の協力で学校関係者の努力があつての授業だと思っています。

しめ縄の材料はもちろん餅米のわらを使うのですが、1cmでも長いわらを使いたいため稲刈りの時から気を配り、コンバインは使わず手刈りをします。また準備段階では「わらすぐり」をしたり、裏山にウラジロとゆずり葉を採りに行きます。今年は特に寒波が厳しくかなり寒かったです。山の中はわりには暖かく、また会員同志の話もはずみ、まるで子どもになったようにシダの中をかきわけ、かきわけ歩きまわり集めました。

さて、今年の「ふるさと学習」は12月15日10時からの授業でした。縄は12本のわらで左縄で作ります。6年生は2度目、5年生は初めてのように悪戦苦闘…。なかなか縄にならず大変でしたが、1時間半ばかりで全員が完成させました。中には上手にできる子どももいました

が、その子の家族構成を聞くところには必ずしめ縄を作れるおじいちゃんかおばあちゃんがいらっしゃいました。左縄のしめ縄ができ上がった。それを丸く輪型にして、ウラジロ、ゆずり葉、日の丸の小旗と果物の橙を取りつけて完成です。お正月には子どもたちの作ったしめ縄が各家庭の玄関に飾られることでしょう。

向う1年間、カゼもひかず病気にもならず、元気に過せますよう…との願いを込めて。今年も無事終わりました。



古里探訪、報告

松永一雄（山陽小野田市）

山陽小野田市が平成17年3

月に旧山陽町と小野田市が合併して新しく誕生しました。

このことで旧厚狭郡山陽町津布田地区在住の私たちも、津布田ふるさとづくり協議会」として、旧小野田市の歴史を学び、新しく私たちの「古里」となった小野田を知る勉強をしようということになり、平成17年10月25日（火）にマイクロボス2台で津布田会館前を9時に出発しました。

(1)山陽小野田市歴史民族資料館へ。担当職員の説明を聞き、次の(2)環境衛生センターでは生ゴミから粗大ゴミまでその処理について見学。さらさらガラス館の見学を終わり、さらさら交流館で楽しい昼食をすませ、(3)竜王山公園オートキャ

ンプ場を散策、(4)耳観音を参拝して、(5)小野セメント徳利窯を説明者付きでの見学後、(6)浜五挺唐樋にも行き、見学研修の勉強会を楽しみ16時ごろ全員元気に津布田会館へ帰着出来、感謝の一日でした。

『元気です 頑張ってます。4町老人クラブの皆さんは』
小田薫（下関市）

平成17年の11月25日に下関市豊北町にある「下関市豊北生涯学習センター」で豊浦4町（菊川・豊田・豊浦・豊北）老人クラブ協議会主催の恒例の「4町老人クラブ協議会文化祭」（第29回）がおおよそ350名の参加を得て盛大に行われました。

当日は早朝から出展作品が次々と運び込まれ、各町別に設けられた展示パネルと展示台に皆さん方の苦心の労作の数々（手芸・竹細工・藁細工・陶芸・絵画・切り絵・和紙ちぎり絵・彫刻・盆栽・木目込み・手描友禅・手芸・編み物・ペーパークラフト・パッチワーク・俳句等々）が見事に飾られて



いきました。

文化祭は9時に開式の言葉で始まり、全員が起立して国歌斉唱の後、「山口県老人憲章」が高らかに朗読され、会長あいさつや来賓の祝辞の後、「老人クラブの歌」を合唱しました。

その後、講演に入り、山口大学教授の辻正二先生から「生涯現役社会と老人クラブ」の演題で映像パネルを使って詳細な説明がありました。老人クラブの現状や生涯現役社会時代の地域づくりについて例を挙げてのお話で、拝聴した私たちにはとても参考になりました。

お話の中で驚いたのは、老人クラブ数や会員数の減少を表した図表でした。全国的な現象で、山口県でも同じことが起きていました。高齢社会の思わぬ実態を知って、これからの老人クラブの在り方はもっと地域と密着した活動でなければと思いました。

午前の部が済み昼食が終わると、自然に作品展の会場へと足が向きました。展示された作品はどれもこれも見事な出来栄で、まさに玄人はだ

しの傑作ばかり。「これ売って貰えないの」と隣の人に話す声も聞こえたほどです。

午後1時からは雰囲気が始まりと変わり、演芸会の始まりです。カラオケ・舞踊・フォークダンス・ハーモニカ演奏・手品・銭太鼓と盛り沢山の演目は25もあり、出演の皆さん方は舞台にとりどりの装いで出演。あでやかに演技をされ、日ごろの稽古の成果を見事に表現しておられました。観客もそれにすっかり魅了されて、演目が一つが終わるごとに盛大な拍手がわき起こりました。

そして午後3時過ぎに楽しかった文化祭の一日は来年の再会を約して閉幕したのです。



生涯現役推進員について

当センターでは、高齢者や中高年の方々が健康で生きがいをもって地域社会に参加できるよう支援するため、地域における様々な活動情報等の提供を受け、情報誌や生涯現役情報ネット(ホームページ)等を通じて、県民に広く紹介していますが、その推進役として平成15年から「生涯現役推進員」の募集を始めました。

生涯現役推進員への応募資格は、「やまぐち長寿大学」の卒業生、又は高齢者や中高年の社会参加活動に意欲のある方で、応募理由や活動状況から選考され、概ね50名が委嘱されます。

任期は2年で、以下のような役割が求められています。

- (1) グループの立ち上げ支援や生きがい、健康づくりへの助言を通して、高齢者等の社会参加活動等、生涯現役社会づくりを推進する。
- (2) シニアアクティブ推進会議が提供する情報を地域に発信する。
- (3) 地域での高齢者グループ(サークル)、人物等の活動例や活動場所などの情報を収集し、レポート・写真等により、随時センターに紹介するとともに、センターが実施する事業について紹介を行う。

現在は、平成17年に委嘱された51名の生涯現役推進員の方々が県下各地で活躍中です。

